

【グローバル・プラットフォームに関する議論】(その①)

- 日本は公正にやっている感じだが、世界は公正さはそっちのけで、弱肉強食で進んでいる。公正さは大事にしなければならないが、大惨敗したら元も子もないと思う。
イギリスは、ユーザに受け入れられたiPlayerを足がかりに積極的に行こうとしているが、Google等に対する対抗策として正しいのではなかろうか。これは、早くユーザをつかんだもの勝ち、そこから拡大してプラットフォームを取っていかうという考え。現在はユーザーの利用こそがスタンダードを決める。
足並みそろえて標準化をすることもいいとは思いますが、どちらが有効だろうか。
- グローバル・プラットフォームという新しいマーケット分野に、日本のプレーヤーはあまり気がつかなかったのか、関心がなかったのか、能力がなかったのか分からないが、そこに入れなかったという現実がある。プラットフォームを日本からスタートして作れるのか、グローバル・プラットフォームが日本のユーザと直結してしまうか。その見極めが非常に重要。
- 新事業を創るという観点から考えたとき、いくつか仮説を持つべき。
一つ目は、グローバルの市場をとれない事業は生き残れないのではないかという仮説。その中では、ベンチャーなどがグローバル進出していくときにどうすべきか、という論点もある。
もう一つの仮説は、グローバルなクラウドのネットワークとプラットフォームがない国は、外国企業の言いなりになってしまうのではないかという点。グローバルなクラウドのネットワークを日本の事業者が構築したいというときに、どのように後押しできるのか。
- 国内市場は放っておくと縮小していく市場で魅力がないのかもしれないが、ただしこの国で生まれた新しいものがどンドン外に出て行くというサイクルを作っていくことは非常に重要。

【グローバル・プラットフォームに関する議論】(その②)

- 世界中の産業構造は、これまで国ごとに垂直統合していたものを崩壊させて、グローバル・プラットフォームに収斂させていくという状況が間違いなく起きている中で、政府はいったい何をすべきか。
日本の産業界から見ると、グローバル・プラットフォームに自ら出て行くか。あるいは、出て行けないのであれば国内垂直統合も維持は不可能であるとなると、プラットフォームの上に息をするモジュール的なビジネスにならざるをえないという二極化が進むと思う。
- 国の目線としてどちらの立場に立つのか。消費者は外資系のサービスでも構わないと思っている。でも、そうすると日本の国内の事業者が成り立たなくなってくる。政府はどちらに依拠するのか。なかなか難しい問題だが、最終的なゴールをどこに考えるか。国際競争力をさらに高めていき日本の国力を維持するというゴールを設定するのであれば、実は外資系のサービスの進入を許し、その上で新しいビジネスを構築する方が最終的にはいい結果になる可能性はあるのではないか。
単に国内産業の育成、振興、保護みたいな方向性だけで話を進めるのではなくて、もう少し違う視点が必要になってくるのではないか。また、その視点をもとに、その道筋をどう作るのか。
- これから日本は、グローバル・プラットフォームをやるのかどうか。あるいは、プラットフォームがダメだとしても、アプリケーションやコンテンツでは戦える訳で、それをどのようにやっていくのか。
この2・3年でグローバル・プラットフォームビジネスが生まれたが、そのタイプのビジネスにはガバナンスの仕組みがない。日本はそれに対してどのようなスタンスをとっていくのか。もう一つ上の、グローバル・プラットフォームに対するグローバルガバナンスの仕組みが必要かという議論は国しかできない。
- ネット家電は、本来機能がしっかりとある上にネット機能があるというものがでてくるのが一つの大きな産業になると思う。そういうときには途上国からの追い上げに対するグローバルスタンダード作りを、まだまだ捨て去ることができないのではないか。

【政策全般についての意見】(その①)

- 提起したいことは、料金水準。80チャンネルぐらいのテレビが見られて、ブロードバンドインターネットができ、電話も使えて、携帯電話も使うために、現在年間約12万円以上かかっているところを、年間約5万円以内、つまり月額4千円ぐらいでコネクティビティとコンテンツが利用できるという水準で打ち出せば、ネットワークを活用した色々なビジネスが大幅に出てくるのではないか。
- この十年、政府がやってきたことは、一つは規制政策であり、もう一つは産業振興。後者は基本的には実証実験モデル。いろいろ面白いものもたくさんあったが、報告書をまとめて終わり、その後、それが実際にビジネスで使われるかという使われないというケースが非常に多い。何か、別のやり方で、施策を遂行するモデルを再構築する必要があるのではないか。
個人的には、国が持っているデータを徹底的に公開し、それを特定のICT企業ではなくベンチャーも含めた様々な事業者に使わせる。それを実証実験の期間を区切ってやるのではなくて、継続的にやるという方向性に話を進めるべき。
政府の施策の実行方法と、どの視点でものを見るかという二点の再構築を強く求めたい。
- シリコンバレーモデルは、核となる研究機関、大学があり、そこに優秀な人材が集まり、資本市場が活性化し、雇用も流動化し、という中で、次々と新しいモデルが出てきている。そういうものが日本でこれからどんどん生まれるようにすべき。少し枠を広げて情報通信の政策だけに閉じず、資本市場の問題、雇用の問題とかひっくるめて考えないと、この後十年の展望は開けないのではないか。
- 今ある産業の規制のモデルが、そのままICTの分野で使えるかという議論もしておかなければならない。今のICTのグローバルモデルがでてきたときに、市場を独占することでいったどういう弊害がでてくるのかをにらみながら、日本でICTの規制をどう考えていくのかということも見ておく必要がある。

【政策全般についての意見】(その②)

- 放送と通信はもはや維持できるモデルか。事実上、行ったり来たりしているのではないか。それに対して情報通信行政としてどういうツールを持つべきかを考えていかないと、まずいのではないか。さらには、今ある規制システムが新しい新事業の創出を阻害しているのではないか、そういう側面もあるのではないかというところも含めてご議論頂くと実りがあるのではないか。

【その他のご意見】

- 従来のハードウェア中心の構造は終わりを告げつつあり、完全にネットワーク化されたソリューションビジネスに劇的に移行している。そういう世界では、ハードウェアそのものの出来不出来よりも、実は人間が操作するインターフェイス、デザイン、どのようにウェブと連動させるかというネットワーク性等にシフトしている。
- 通信キャリアはここまでがうちのテリトリー、家電メーカーはハードを売るだけ、など、プレーヤーが自分たちの今までの成り立ち、生業がそのまま今後も継続できるのだということを前提に考えているところに壁があるのではないか。
- 今までは、明確な研究開発課題に向かっていかにして新しい技術を開発していくかが研究者・技術者の役割であった。今、求められているのは、その先。一体全体何をやるかが、今、分からなくなってきているというのが、10年前、20年前との大きな違い。
- 何をゴールとして出すのかというのがぼやっとしている部分がある。新事業創出とは何か、という部分を、一度、はっきりできる形で合意をとりたい。